

あつたが、接觸する事は非常に困難になつた。余は度々彼の女の事を思ひ、或る夜彼の女と遊んだ海濱の事を夢みて、初めて射精を行つた。

彼の女に對する余の愛着は其の時尚残つてゐたが、學校を卒業して寄宿舎に這入るに及び、其の感情は次第に冷却した。併し、別れに際して非常に不幸と寂寞とを覺えた。余の兩親は其の頃男性と遊ぶ事を余に強ひた。余は其れに従ふのが非常に苦痛であつた。やがて彼の女は余の腦中より去り、余は遂に大學に這入つたが、其の入學前に自瀆的遂情を始めた。大學入學後は或る時期を置いて女性と交り、性的關係は全く普通の状態に發達した。

性慾機關の教育法の異らざる限りは、男兒と女兒との間に著しい差異の存在しない事は大略上述の通りである。併し十分に發育した女子は屢

々認めらるゝ、性慾脱出即ち快美感覺の缺陷及び同衾中性慾を起さるゝが如き状態が、既に兒童時代に於て認めらるゝ事は争ふ可らざる事實である。

又、性慾の外的作用は男兒よりも女兒の方が著しく退歩してゐるものであつて、女兒は男兒を愛して抱擁又は接觸を好みながら、男兒が女兒を愛する場合の如く、容易に性交的行爲を斷行し得ないものである。女兒同志の間に於ても同様で、男兒同志の如く性交類似の行爲に出づるを得ない。故に女兒の同性愛は男兒の同性愛よりも遙かにプラトニック・ラブであると言ふ事が出来る。

四 自瀆及び射精の現象

自瀆とは英語の所謂マスターベーション、獨逸語の所謂オナニーであ

る。オナニーとは舊約聖書にあるユダの子イスラエルの孫にしてオナニーと云へる者より來れりと云ふ。

吾人は假りに自瀆を收縮慾の表現であると云つたが、收縮慾の既に存在してゐる時は更らに屢ば自瀆を行ふものであつて、何等の想像的觀念なしに純粹の有機的活動として起る場合もあれば、又想像的觀念が重大な役目をなす場合もある。そして其の狀況は兒童に於ても又發育した人間に於ても同様である。

想像的觀念が存在すれば接觸慾の目的に適合するものである。例へば男兒ならば女兒を想像し、無差別性慾の場合ならば男兒を想像するの類で、而も大抵は年長者に限るものである。

最初のうちは想像的觀念が缺乏してゐても、大抵は漸時に生ずるのを常とする。尙又兒童時代には少年時代よりも想像的觀念の無い自瀆が比

較的多く現はれるものであつて、收縮慾の外的作用及び接觸慾の中心作用が未だ左程密接に融合しないものである。

大抵の場合、收縮慾の前に起る接觸慾が既に覺醒せる時にも、收縮慾の起るに際し、兒童が想像的觀念無しに自瀆的満足を得る場合は比較的多い。かゝる時には生殖器の人工的刺戟は異性の接觸及び抱擁に對する願望とは獨立して起るものである。

吾人は既に發育せる人間の快美感覺が、心理性慾的感情と密接の關係を有する事即ち接觸慾に關連する事及び接觸慾に適合する活動の行はるゝ時にのみ完全なる快美感覺の生ずる事を述べた。併しながら此の兩作用の連結せざる時にも快美感覺は存在し得るものであつて、これは兒童が發育せる人間よりも接觸作用に無關係で、外的快感及び満足感情に達するを見ても理解し得らるゝ事である。

併しながら、此の兩作用は兒童時代に於ても次第に連結するものである。此の場合には快美感覺及び主觀的安心は其れに適合せる動作と觀念とによつて解決されるものである。これを要するに、兒童時代は發育した人間の場合よりも快美感覺並びに満足感情が接觸作用より獨立して表はれ易いのである。

射精は自瀆の際に絶對的必要ではない。大人に於ては最後に大低射精するものであるが、兒童に於ては必ずしも然うではないのである。併し第二兒童期の終りには大低射精作用の表はれる事は事實の證明する處である。

生殖器の刺戟法は種々あるやうであるが、大低は手指によるものらしく、可成人目を避けて行はんとするものである。男女に於ける自瀆度数の比較は從來屢ば學者によつて試みられた處であるが、先づ女性よりも

男性の方が多いとされてゐる。モールは此の説を承認して、普通の性慾を有しながら、自瀆的遂情を行はなかつた男は極めて少數であると云つてゐる。これに反して女性の自瀆的遂情に關しては諸説紛々として容易に決定しない。モールが各方面に質問を發して得た結論は左の通りである。

女兒の自瀆は男兒程盛んでない。併し成人後性慾の猛烈な女性は小女時代に自瀆的遂情を行はなかつたものである。又、自瀆を行ふ女性は其の度数甚だ多く、二度若しくは三度連續的に行ふ事は遠く男性の及ばざる處である。

グットサイトの意見もモールの説と一致してゐる。たゞグットサイトは十八歳乃至二十歳にして性交を有せざる女性は悉く自瀆を行ふと斷言してゐる。併しこれは觀察を過まつてゐる。十分發育した二十歳以上の

女性にして男性との性交もなく、自瀆をも行はない眞の處女は幾等もある。これは女性に性慾脱出のある事を見ても理解される事である。

吾人はこれから一つ不明な點に研究を進めなければならぬ。其れは兒童が心配の感情に囚はれた時に性慾的昂奮を起す事である。斯くの如き時兒童は射精を起し、或ひは勃起せずして多少の快感を起すのである。左に其の例を示す。

或る生徒は臨時課題を出されて時間が切迫して來たのに未だ答案が出來なくて、弱い快感と共に性慾的射精を起した事を自白してゐる。又或る生徒は卒業試験に同様の場合に遭遇して射精したといひ、又或る生徒はやはり試験場でカンニングを發見された爲め、放校を畏れて射精したといふ。

思ふにこれ等は皆心配感情の爲めに或る苦痛を感ずる結果、被殘忍性

色情に類化した性慾を生じたものではあるまいか。

モールの説によれば、斯くの如きは大抵男兒で、而も極めて少數の男兒に一度か二度あつたに過ぎないさうである。女兒には僅かに二實例に遭遇したのみで、十三歳と十四歳との女兒であつた。其の中の一人は其の現象後も尙續いて、性慾的に十分發達した後も、少し恐怖的感情に捉はれると直ちに射精したといふ。

左に最も好適例を示す。二十歳の大學生である。

私は十六歳にして初めて性的感情を知つた。私は其れより以前から、友人に生殖や自瀆其の他の事を教へられてゐたが、一二回自瀆的行爲を試みたのみで、決して性的行爲を行はなかつた。然るに第二上級に進んで及落を決する算術の試験を受けた時、容易に答案が出來なかつた爲め非常に煩悶焦慮し、辛ふじて漸く其の半ばに達した時

教師が残り僅かに十分間なる事を告げた。私は其の刹那非常なる恐怖的感情に襲はれて、初めて精液を射出した。私は其の時の状態を十分に説明する事が出来ない。唯だ快感を感じたのみで勃起したとは思はなかつた。

其の後第一級生となつた時、また同様の場合に二三度射精したが、爾來普通の性慾状態に發達した。其の他婦人に接觸したと思つた時、夜遺精をした。又一度夢で狂犬に逐はれ逃走せんとした時、急に跛足になつて一步も前進出來ず、非常な恐怖に襲はれて射精した事があつた。

性的既熟の男女が性交も自瀆も行はない時は、睡眠中時々遺精をするものである。其の時男性は精子を射出し、女性は無力腺分泌物を射出する。遺精は大抵快感を伴はないのみならず、性慾感情に相當する生理的

過程をも伴はないものである。普通異性の抱擁を感じ、同性愛の者も同性の抱擁を感じるものである。

夢精は遺精と異り本來的活動の準備たる接吻、接觸、抱擁等を夢み、性交にまで達せざるうちに射精するものである。然し其の他の點は覺醒時の生理的現象と異なる處はない。

兒童にも此の現象は存在し、未だ自瀆の發生しない時期に既に起るものである。殊に女兒に其の數が多い。心理性慾的作用は勿論兩性とも性慾的の夢の起らない時に成立するものであつて、男兒は未だ女性の抱擁を夢みざるうちに女性に惹きつけられるものである。

併し、明かに夢が心理性慾的生活を覺醒せしむる場合は別として、大抵は遺精の如き深き印象を遺す現象の起らない時には、夢は大抵忘却されるものである。故に吾人が心理性慾的生活が先づ自覺むると信じつゝ、

ある場合に夢みた事が、既に其の前にあつたのを忘れる場合が少くないのである。故に變態性慾は大抵先づ夢の中に行はれるものと云ふことが出来る。そして、兒童が早熟なれば早熟なだけ性的の夢に襲はれるものであつて、従つて夜の遺精も早くから行はれるものである。モールは余の知れる範圍にても十歳又は十一歳にして性的の夢に襲はれたものは少くない。然し七八歳にして襲はれたものは極めて少数であつたと云つてゐる。

兒童にも覺醒時に性的刺戟を受けたものが夢に現はれる事が多い。然し成人した者に比較すれば想像が遙かに多く混じてゐるものである。又覺醒時には何等性慾的ならざる觀念が射精を誘發することがある。そしてお伽噺で知つた盜賊や惡魔の話し、囚はれ女王の話し、王子の話し等が夢の心理性慾作用の中に混入する場合が多い。斯くの如き現象が性慾

の發達と共に消滅するものである事を知らない人は直ちに病的だと思ふであらう。又前に説明した恐怖感情が、夢の中に遺精を起させる事がある。強盜、野獸等に襲はれる夢を見て遺精を起すのである。前に示した大學生の例が其れである。或る場合には遺精を起す場合の兒童の夢が甚だ不確實で、大人に於けるが如く覺醒時の心理性慾的感情と何等明白なる關聯の無い事がある。

有名な佛國の革命婦人マダム・ローランドは、其の日記に初めて経験した夜の遺精の事を記述してゐる。夫人は革命の際囚獄の身となつてゐたが、彼の女は曾て祖母から性慾に關する一部の説明を聞いた後初めて月經が來潮した。然し夜の夢で性的昂奮を感じた事は其の以前にあつた。

其の前私は突然深い眠りから醒めたことは屢ばであつたが、想像力は少しも加はらなかつた。私は成る可く想像力を眞面目なものに集

申し、又私の臆病にされた良心も絶えず其の方面に注意した。然るに其の静まつた心を掻き亂さんとする一種の衝動が、突然私を襲つた。

202

私は元より其の原因を知らなかつた。先づ第一に起つたのは何故とも知れぬ一種の恐怖であつた。私は正しい結婚より以外に快樂を求め可らざる事を以前から知つてゐた。妾の感じたものは一種の快樂なので、私は其の罪の深きを知り、恥しさと悲しさとの極に達した。私は俄かに祈りを捧げて、二度と再び斯くの如き事の起らざらん事を神に願つた。

然し、私の不安は静まらないで、身の終りが近づいたかの如く悲しんだ。私は自ら其れを防ぎ得ない時は、直ちに寢臺から飛び下りて、寒い冬の夜を氷つた床に跣足で降り立ち、サタンの神から救はれん

事を神に祈り、又と――

夫人は次ぎに減食して防がうとした事を記述してゐる。

五 春機發動期の現象

以上、吾人は兒童の性慾作用中最も重要な部分を説明し得たと信ずる。これによつて兒童の性慾作用が一般に信せられつゝあるよりも、更らに多くの準備を有せる事が理解されたであらう。

今これを綜合して云へば、兒童の性慾は一方の作用が起る事もあれば、他の作用が起る事もある。更らに又一方が他方より優越せる事もある。これを例ふれば、女兒が生殖器に自覺的感覺を感せずして、男兒に性慾的愛着を生ずる事があるやうなものである。又全くこれと反對の場合の起る事のあるのも此の類である。

203

總じて性的感情の強弱は人によつて異なるものであつて、非常に強い性慾を有する兒童もあれば、又正當に發生しながら殆ど自覺に訴へない程の弱い者もある。これは接觸作用と收縮作用との連合したものである。

從來學者は變態性慾を性慾感情が特別に早く發生したものと認めてゐたが、これは大なる誤りで、普通の性慾感情が幼時に發生する場合すらあるのである。又感覺の強さも變態性慾とは何の關係も無く、特別の強さに達しない變態性慾もあり、又普通の性質を有せる性慾感覺にも知覺過敏と稱し得るものがあつて、兒童時代に非常に強い感覺を有する實例も少くないのである。

兒童の性的生活の現象は勿論同一程度で繼續されるものでなく、年と共に明白となることは云ふまでもない。故に兒童の性的生活の現象は誘惑によつて喚起する事も出来れば、又發達を中止して直ちに退歩せしむ

る事も出来る。それが性的教育の可能なる理由でもあり、性的教育の必要な理由の一部分でもある。

兒童の性的生活が同一程度で繼續するものでないことは前述の通りであるが、第二兒童期の終りに於ては特に著しい發達をなすものである。此の時期に於ける外形の發達は驚くべきもので、男兒にあつては髭鬚の發生、喉頭の増大、睪丸其の他の生殖器は迅速に發達し、女兒にありては、胸廓及び骨盤の形成次第に女性の特徴を現はし來り、卵が熟して月經が來潮する。

又此の時期に於ける精神上の發達も著しいもので、凡て内部に堆積して外部に活動せんとする状態となる。男兒が旅行、冒險、理想的計畫又は宗教的活動等に加はらんとするのは皆此の時期で、監督宜しきを得ず、又は餘りに壓迫を加へると、往々家出をなし、終生放浪生活に親しむや

うな結果を招來する。一體に此の時期は倫理觀念が自覺的大膽と交替して、生氣全然一變するものである。又、中にはこれと反對に非常に憂鬱的となり、哲學や文藝に親しまうとする者もある。前章に説明した浪漫的な戀愛を夢見るのも此の時期である。女兒にありては不明瞭なる想像が明白となり、次第に女性的特徴を現はし、特に羞耻感情が甚だしく發達して、第二兒童期に存在する亂暴な觀念や舉動は全然消滅するものである。

從來人は春機發動期を以て性的生活の發達及び成熟を意味するものとなし、或ひは陰毛の發生、胸廓の發達等外的現象を以て其の標徴とし、或ひは最初の月經又は射精を以て其の標徴とした。

併し射精が既に生殖可能或ひは性的既熟の證據でもなければ、月經が生殖可能の證據でもないのである。以上の觀察研究によれば、少くとも

第一兒童期の第一年に於て性慾作用の成立する事を示してゐる。殊に此の際は心理的性慾が大なる役目をなすものである。故に醫師、教育家、兩親又は性慾學專攻者は外的現象は僅かに其の一部分であつて全部ではないといふ事を忘れてはならない。即ち性慾作用の始まりは遙かに其の以前であつて、成熟は其の後多くの手を経なければならぬのである。

併し、吾人は上述の説明によつて、兒童の性慾生活を證明する個々の現象を紹介したとは云へ、これ等の現象が悉く一般的であつて、有らゆる徴候が悉く觀察し得られたのだと云ふ事は出来ない。吾人は説明の都度屢々機會を捉へてこれに制限を加へて來たが、最も屢々現はれて來るものは、既に紹介した如く心理性慾的現象である。時には非常に微細にして且つ精密なる研究によらなければ、確定し得ない程の徴候をも擧げた。これを要するに、吾人は一般に非性慾的と認められつゝある兒童時

代にも、既に或る意味に於ける性慾生活の存在せる事を説明したのである。

此の説明を完成するには、次ぎの數言を附け加へなければならぬ。次項で説明する去勢の結果の示す如く、性慾作用の未だ確認せられざる時にすら、既に性慾作用が存在してゐるのに、十四才又は其の以後に於て性慾生活を認め得ざる兒童がある。又十五六才にして遺精を行ひながら性慾を認め得ない場合がある。大抵の場合は遺精を行はずとも性慾の覺醒を認め得べきに、自瀆は勿論其の他の心理性慾的作用等一切の性慾行爲が認め得ないのである。

これは勿論道德の結果ではなく、平均的に發達が遅緩したのに外ならない。斯くの如き兒童は色盲が色彩に盲するが如く性慾に對する理解をもたない。併し後には次第に普通の状態になつて、唯だ二三の作用の發

作が遅れるに過ぎないやうになる。モールは曾て斯くの如く發達の遅れた後、十四才の終りで性交の際時々射精をしながら、自瀆を行はなかつたものを見たと言つてゐる。斯くの如きものも精密に觀察すれば、必ず性慾を發生すべきものであるが、其の時期の遅れるのは云ふまでもない。全くこれは性慾的理解の缺乏してゐる爲めで、モールは又勃起及び遺精を行ひながら、二十才にして性交の際射精し得ざる人を見たと言つてゐる。斯くの如きは決して教育の影響又は所謂性的神經衰弱ではない。寧ろ後天的原因によつて發達が遅れたものと見るべきである。

六 性的現象の生理學的證明

以上稍や複雑な研究であつたから、或ひは讀者の理解が充分で無かつたかも知れない。で、茲には生理學的に以上の所論を歸納して見る。併

し、難解な點では寧ろ今迄での説明よりも難解である。殊に末段に至つて神經的學理と化學的學理とを對比研究する部分などは、可成り専門的知識の必要な説明であるが、其れも所謂讀書三遍自ら通ずで、云はゞ術語ニッの上の難解であるから、少し注意して前後對照されたならば、恐らく釋然たるものがあらうと思ふ。

内分泌の事は既に前に大略ながら説明して置いた。男性の生殖能力は精子の發生が睪丸内に起つてから生ずるものであるけれど、睪丸の活動は既に其の以前から開始されつゝあるものである事を、讀者は既に記憶してゐる筈である。(女性の卵巢も同じ事である。内分泌の項參照)

従來は勿論現今に於ても、此の活動が閑却されてゐるのは、睪丸は單に精子のみを製造分泌するものと認むるが故である。併し實際は尙他の方面にも睪丸は種々の作用を及ぼしてゐるのである。

睪丸摘出即ち去勢は肉體上並びに精神上に著しい影響を與へるものであつて、其の時期が早ければ早い程其の影響は甚だしいものである。此の際起る現象は第二性的特質(生殖器以外の男性的特質)の退化であつて、鬚鬚を生ずる事無く、大低の場合大なる脂肪組織生じ、骨格の發達状態も變化して、聲は兒童時代の儘變化無く、又生殖器の發達を休止し、陰莖及び攝護腺等は矮小となるのが常である。如何に早く睪丸摘出しても男女の性的區別は困難ではないが、代表的な性的差異は發達せず終るものである。

従來は精子の分泌が第二性的特質に影響すると云はれてゐたが、近來は此の説は否定せられ、却つて次ぎの如き新説が確認せられた。

第一 精子發生の開始された後、睪丸を摘出して、従來唱へられた如き結果を生ずる事は稀れで、唯だ性的特質を多少弱むる

に過ぎない。

第二 睪丸摘出を幼時に行へば、其の結果は顯著である。

第三 精子發生の前即ち第二兒童期の最後の年に睪丸を摘出すれば其の結果は更らに少い。

若し精子が第二性的特質の成立に重大な關係を有するならば、前記三ツの場合の如何なる場合に睪丸を摘出して同一の結果を生ずる筈である。故に第二性的特質の成立は精子と何等關係なく、更らに其の發生以前に起るある他の作用（即ち内分泌）に關係を有するに違いない。

睪丸摘出と其の結果とに關する學者の説の一致しないのは、睪丸の作用の精子發生前に人體に及ぼす影響が人によつて異なる事を説明するものである。生殖可能期又は月經期が人に早晩の差がある如く、他の作用にも人によつて早晩の差があるのである。故にたとへ同年齡に睪丸を摘出

しても、各人各様に異つた發達をなすもので、或る者は骨盤が發達し、聲、髭鬚の發達全く普通の状態であるのに、他の者は全然これ等の特質の發達を妨止せらるゝ事がある。従つて彼の六七才で去勢された宦官が、外形は全然去勢者の如き情況を呈しながら、劇しい戀に陥るが如きは決して怪しむに足らない。

これ等の結果は皆支那の宦官及び最高音^{ソプラノ}を出さしめる爲め去勢された伊太利の音樂少年から得た結果であるが、人間の去勢的試験は其の結果を見る事が容易でないから、茲には更らに動物の實驗について其の説明を試みよう。

彼の幼時に去勢せられた牡馬が、全然性慾の發達を妨止せられたものもあれば、又或るものは明かに性慾作用を有するものもあるのは、幼時に於ける去勢が既に明かに其の時期の遅い事を證明するものである。

單に此の二事實を以てしても、睪丸は精子の發生せざるうちに、既に牡動物並びに人間の男性の性的に大なる意味を有する作用を生ずる事が證明されるわけである。

女性の場合は動物に於ても人間に於ても去勢される事が男性よりも稀れであるから、其の胚種腺（即ち卵巢）に對して上記の現象を男性の場合の如く強く主張する事が出来ない。併し、今日までの動物試験の結果と、婦人の去勢を實行する或る特種の國を旅行した人の觀察とによれば、男性と同様の結果を生ずる事を證明して餘りある。即ち女性の卵巢も性慾熟する以前から既に或る重要作用を生じてゐるのである。

春機發動期の前に一方の睪丸を摘出して其の性慾作用を試験すると、他の一方の睪丸に代理的肥大現象が起る。併し春機發動期の後に於て一方の睪丸を摘出すれば斯くの如き現象は殆ど無く、又有つても其の程度

は極めて弱い。

斯くの如く胚種腺が胚種細胞を排出せざる間に於ても、既に或る作用の行はれつゝある事は確實なる事實であるが、其の作用は如何なる種類のものであるか、其れが即ち内分泌であるとはまでは解つてゐるが、不幸にして胚種腺の内分泌に關する知識は其の實驗が困難であるのと、其の刺戟素の化學的成分が未だ充分明瞭でないのとで、他の臓器の分泌作用のやうに明白に説明し得られないのを憾みとする。吾人は今此の問題の説明を試みないで、先づ第二性的特質の發達の上に及ぼすべき胚種腺の影響を左に述べる。

以前には胚種腺は直接或る影響を及ぼすものとせられてゐたが、近代の學者殊にフォン・ハルバンはこれに反對して異説を立てた。其の説によると、胚種腺は形式的なる機關を形成する刺戟を與へずして、保護的

刺戟を與へるものである。既に胚胎した卵が性的結構を有する如く、胚種性並びに其れに相當する性的特質にも、同様の結構を有するものである。これを云ひ換れば、性は胚種腺の存在によつて定まるものではなく、寧ろ胚種の性及びそれらに相當する性的特質が、既に卵の受胎する時共同的なる原因によつて決定するものである。

併し、第二性的特質に及ぼす胚種腺の影響は、ハルバル及び其の他の學者も承認する處であつて、要するに其の差異は唯だ一つ其の影響を形式的とし、他は保護的とするに過ぎないのであるから、斯くの如き難解な科學的差異に懸念せず、讀者は兎に角第二性的特質に及ぼす影響を認めて置けば宜しい。

此の際影響する學理に、神經的學理と化學的學理との二つがある。

第一の神經的學理とは、中心神經組織に傳播せらるゝ刺戟によつて、

肉體の或る部分即ち髭鬚或ひは男子の喉頭、又は女子の乳腺を生せしむる反射作用に類する作用を有せる刺戟が、睪丸及び卵巢（即ち胚種腺）に起る事を云ふ（遠心的作用で營養神經が刺戟されるのであらう？）

併し、恰かも幼少時代から或る感覺機關が缺乏して、中心神經組織の其れに相當した部分が片輪となつた時と、此の幼少時代に去勢した場合と、事情が非常に類似してゐる。此の見方によれば、去勢の際に於て機關に起る明瞭なる發達障害は、腦の或る部分的萎縮と解釋しなければならぬ。

神經的學理に反して、近頃次第に内分泌作用の化學的學理が認めらるゝに至つた。此の事は從來全く知られなかつた諸腺から起る化學的作用を吾人が知つたのと密接の關係を有するものである。

例へば既に説明した甲狀腺の作用を見ても理解し得られる。此の化學

的學理によつて、胚種腺にも一種の化學的物質が存在し、第二性的特質を成立するものである事が闡明せられたのである。

又、禁慾の結果生ずる不幸なる結果を説明するにも此の學理を利用して、此の腺の分泌物が堆積すれば毒作用を起すと説明する學者もある。

(ホルモンの毒作用といふ。)

尙、睪丸中に第二性的特質を發達せしむべき腺分泌を生ずる能力ありとしても、茲に研究しつゝある時期は、尙未だ精子の發生しない兒童時代であるから、此の分泌物中に精子を含まない事は云ふまでもない。

幾度か説明した如く、近頃の研究によれば、實際睪丸中には二重の活動があつて、佛國の或る醫師は睪丸中に二種の腺のある事を證明した。

即ち精子を作る腺と間質腺とである。精子の製造は云ふまでもなく生殖の爲めで、間質腺は血液の循環或ひは淋巴液の循環の中に混入して、第

二性的特質を發達せしむる或る化學的刺戟素を分泌する作用を有する事が證明されたのである。

従つて去勢は精子の製造を破壊するのではなく、此の間質腺の分泌物を妨害するのである事が明かにせられた。

神經的學理又は化學的學理の何れを撰び、何れを採るにせよ、兎に角精子の發生せざる以前の兒童時代に、既に有機體に有力なる作用を及ぼすべき現象が睪丸及び卵巢中に存在する事は明かなる事實である。

従つて精子の發生せざる以前の兒童時代に、既に一種の性慾生活ありとなす吾人の以上の説明は、此の生理學的事實によつて證明せられた譯である。

たゞ前項にも云つた如く、其の現象は同一程度に繼續されるものでなく、又兒童によつて強弱もあり、遅速もあるが、特に顯著なのは心理性

慾的現象である。

第六章 變態性慾の現象

一 變態性慾の種類

變態性慾とは一種の病的性慾であつて、正常ならざる不自然なる性慾である。此の變態性慾に屬する性慾の種類及び分類は學者によつて一様でないが、有名なる精神病學者として變態性慾學の建設者たる獨逸のクラフト・コペンゲの分類が最も完全であるが、今便宜上左の分類に従つて説明する。

- (一) 顛倒的同性間性慾
- (二) 色情狂

(三) 准色情狂

(一) 顛倒的同性間性慾 とは、同性即ち男性と男性、女性と女性との間に聯絡せらるゝ處の一種の性的感情若しくは性交であつて、變態性慾中最も神秘的なるものである。

(二) 色情狂 とは、性慾の異性なるもの即ち性慾に障礙を受けた精神病者の總稱であつて、其の名の如く色情に狂つて荒れ廻るもの、或ひは沈鬱にして煩惱に苦しむもの、或ひは屍體を姦し、動物を姦するもの、又は女子を傷つけ、或ひは虐殺して快美感覺を満足するもの等種々様々であるが、要するに病的にして正常ならざるを特徴とする。色情狂を前の同性間性慾に比すれば、頗る殺風景であつて、何れの方面から見ても神秘的な處はない。

色情狂にも亦種々の區別があつて、

(一) 性的體部狂崇

(二) 性的庶物狂崇

(三) 殘忍性色情狂

(四) 被殘忍性色情狂

(五) 陰部露出症

(六) 獸姦

(七) 屍姦

(八) 偶像姦

(九) 肖像姦

等の種類がある。

(三) 准色情狂 とは、純粹の色情狂ではなく、病理的にこれに近いものを云ふ。これには知識の低き者、道德の薄弱なる者、或ひは知徳

尋常なるも單に克己心の乏しきが爲めに罪惡と知りつゝ犯すもの等がある。

二 同性間性慾

性慾感情が異性に對して起るのは極めて普通の状態であるが、茲に同性に對して性慾的快感を得んと欲する處の甚だ不自然にして性慾の本旨に戻つた一種の感情を有するものがある。これが所謂同性間に於ける顛倒性慾即ち同性間性慾(又單に同性愛とも云ふ)であつて、簡單に云へば、男性にして男性を慕ひ、女性にして女性を慕ふのである。故に同性間に於ける顛倒性慾は其の關係する男女性によつて、

(一) 男性間顛倒性慾

(二) 女性間顛倒性慾

の二種類に分つ事が出来る。

三 性的狂崇

性的狂崇とは異性の體部例へば乳房、臀部、手、足、脛、頸等に特種の性的感情を有し、或ひは異性の身體につけた物例へばリボン、櫛、ハンチケ、洋傘、靴、下駄等に對し性慾的狂崇を感ずるのである。前者を性的體部狂崇と云ひ、後者を性的庶物狂崇といふ。

(一) 性的體部狂崇 日本では衣服の仕立工合の關係から、女性の手足は勿論脛も現はれ、夏時などは殊に胸部腹部までも見られることがあつて、日本人には體部狂崇者は割合に少いが、西洋には女性の白い手を見たゞけで性慾を満たすものさへある。これは西洋では常に手袋や靴下を用ひて、素手素足を見ることが稀れであるので、偶々これを見ると

激しく精神を刺戟される爲めである。これと同一の理由で、或る監獄の囚人が女の長い髪の毛を一本大切に保存して居た例がある。即ち髪の毛によつて女性を聯想し性慾を満たしてゐたのである。體部狂崇が熾烈になると、嘗これに觸れたり見たりするばかりでは満足しなくなる。彼の臀肉切りの如きは正しく體部狂崇の高まつたものである。

(二) 性的庶物狂崇 これは庶物に就いて異性を聯想する倒錯狂である。

四 半陰陽者

半陰陽者とは俗に「ふたなり」と稱し、生物學上の雌雄同體であつて、解剖的にも將た又精神的にも兩性の意味を有するものである。即ち不完全ながらも男女兩性の生殖器を具備するが故に、彼れ等の性慾は取りも

直さず同性々慾に當るのである。半陰陽者の性慾が同性々慾である事は、蚯蚓、蛭、蝸牛等の雌雄同體に徴しても明かな事で、同時に於て男性ともなり又女性ともなり得るのである。

半陰陽者は古昔から在つたらしく、羅馬の末葉カラカラ王時代の如き淫猥を極めた頃の彫刻中にも、半陰陽者の大理石像が多數にある。又三十年戦争前後に出た數多の諷刺畫中にも、半陰陽に關するものが頗る多い。これを以て見れば、斯るものを賞讃した時代があつたのみならず、其れが一時性慾生活の上に勢力を占めて居つた時代があつたことが想像される。

斯くの如く半陰陽者は、何時の時代にも不思議の現象とせられてゐたが、普通人間の半陰陽は一方に偏した傾きがあつて、生殖器も一方に發達したものが多し。眞性の半陰陽者は稀れといふよりも、先づ絶無と云

つてよい。

胎生學上から云へば、胎兒は初め盡く兩性の具有者即ち半陰陽者であるが、發育の途中から男性か女性かの一方に傾き初め、遂に單性となるのである。(生殖器の區分を参照)此の原理から推して考へれば、半陰陽者のあるのは敢て不思議ではないのだが、今も云ふ通り眞性の半陰陽者は先づ絶無であつて、多くは假性半陰陽者である。

石橋四郎氏が徴兵検査執行中に發見した假性半陰陽の一例を榊博士が紹介してゐる。

秋田縣高某。明治廿四年生。父母健存畸形無し。但し第二子も半陰陽なるが如し。

本人は幼時より男性として取扱はれ居り。これ偏側睪丸の下降しあるが爲めなり。身長五尺四寸二分、體重十四貫四百匁、骨格一般に

男性的なるも、性質は温順にして女子に近く、聲音及び喉頭隆起は男子と異らず、左右の乳房膨隆して十七八歳の處女の如く、乳腺又發育し、食指頭大の塊をなせるもの數個を觸知す。然れども乳頭は全く缺如し、唯だ乳房を見るのみ、骨盤は男性と等しく、陰毛は中等量に存す。外陰部は一見女子に類し、唯だ右睪丸下降によりて其の男性にあらざるやを疑はしむるのみ。精檢するに、左睪丸は腹輪内に止まつて下降せず（男子生殖器睪丸の項參照）右睪丸は大陰唇内に破裂せる陰囊内笈下にありて大き雀卵大なり。副睪丸も亦共に觸知するを得、陰囊は會陰縫合連續部に於て一仙米許り癒合し、夫れより上方に向つて破裂し、左右陰囊皺襞は恰も大陰唇の如くにして、唯だ其の右側は上記の如く睪丸を有するにより膨隆す。而して此の破裂は恥骨縫合の下部に達し、これを左右に口開するに小陰唇

に相當する部無く、内部一般に粘膜狀にして腔口を缺く。此の破裂内部の底の上三分一部に豌豆大の陰莖を有し、皮膚破裂による皺襞間に隠蔽せらる。其の中央尖端部に米粒大より稍や小なる尿道口及び生殖管口を有す。然れども陰莖海綿體を缺如す。従つて勃起を缺く。又従來色情觀念の起りたることなしと云ふ。直腸双合診はこれを行はざるも、子宮卵巢に關しては其の存在を認め難し。云々これは正しく假性半陰陽者である。假性半陰陽者には左の二種の區別がある。

(一) 男性的女性假半陰陽者

(二) 女性的男性假半陰陽者

男性的女性假半陰陽とは元來女性であつて、其の生殖器が男性的に發育してゐるものである。故に假に男性と結婚したと假定すれば、妻の任

務に就いて夫婦和合すべきは當然であるが、此の種の者は往々にして其の男性的に發育した外陰部を利用して、他の女子と關係を結ぶものである。然る時は純然たる女性間同性々慾となるのである。

女性的男性假半陰陽とは前者の反對に、本來は男子であつて、其の生殖器が女性的に發育したものである。前例に示した男の如きがこれである。此の種の者も其の生殖器の發育程度如何によつて、他の男子と性交を結ぶ事が絶対に無いとは云へない。

五 殘忍性色情

殘忍性色情とは異性を虐待若しくは殺傷して性慾を満たす一種の性慾倒錯である。其の名は佛國の小説家サデーから來てゐる。サデーの小説中に此の種の性慾を描いたものがあるのである。

六 被殘忍性色情

被殘忍性色情とは殘忍性色情の反對で、異性から受動的に虐待を受け、性慾を飽滿する一種の性慾倒錯である。やはり此の種の性慾を描いた英國の小説家ザッヘル・マゾツホの名から其の名稱が來てゐる。

七 陰部露出症

吾人は本書の第二章に於て野蠻人若しくは野蠻時代には局所を露出するに非ずんば刺戟し能はぬ人間及び時代があつた事を述べて置いた。此の意味に於て此の種の性慾倒錯者は原始的性慾の保有者であるとも云へる。

然し多くは白痴、癡愚の如き先天性の精神病者、若しくは白痴に非ざ

る精神病者に見る事が多い。

八 獸姦及び偶像姦

不自然なる性慾遂行も獸姦に至つては言語に絶する。これは概ね古代遊牧時代に行はれしものゝ如く、今日文明人種の間には白痴、癡愚の如き精神病者に非ずんば、これを耳にする事は殆ど無い。

九 早熟性慾と晩熟性慾

これは變態性慾のうちに論すべき性質のものではないが、便宜上茲に附記して置く。

早熟性慾として病理學上の實例に屬すべきものは八歳、五歳、二歳又は其れよりも以前に月經期に達した女性である。カルスの報告によれば、

二歳にして月經を見、八歳にして妊娠した女性がある。勿論十歳乃至十二歳で妊娠した例は少くない。

或る佛國の醫師の觀察によれば、生後三ヶ月にして乳腺生じ、續いて陰部及び兩腋に發毛して月經を見た女性がある。此の醫師は又生後七ヶ月にして規律的に發達した女兒を見たが、容貌既に童顔を有せず、肉體も既に充分發達してゐたさうである。ケーブハルズの研究によると、生後直ちに月經を見た女兒が一人有つたが、生後一ケ年以内に月經を見た例は少くないといふ。

ニユト・オルレアンからの報告によると、生後三ヶ月にして月經現はれ、而も規律的に其れを反覆した女兒がある。此の女兒は發育も非常に早く、四歳にして一・四分の一米突の身長を有し、乳房の大きさは大なる蜜柑程あつたといふ。斯くの如く女性の生殖器關が早く發達すると著し

く乳房が発達するのが常である。

キツシユの研究によると、早熟者は早期月経と共に他に多くの早熟的徴候を呈するもので、例へば、

- (一) 著しき脂肪の発達。
- (二) 生齒の早き事。
- (三) 容貌の大人振る事。
- (四) 生殖器の発達迅速なる事。
- (五) 腋窩及び陰部に毛の生ずる事。
- (六) 大陰唇及び乳房の発達する事。
- (七) 女性的骨盤の形成する事。

等である。又他の精神作用が遅くるゝに反し、性慾が早くから発達するものである。

解剖的事實に於ては卵巢内に病理的發見を爲す事ありて、從來これに關する報告は少いが、豫想外に其の實例の多い事は多くの學者の信ずる處である。尙小女の卵巢内に成熟した卵を發見した事もあれば、早産の女兒に發見した事もある。五歳の小女にして既に十五の小囊を發見した事があり、リエジヨアは二歳の女兒を解剖して二回成熟した卵を發見したといふ。

男兒にも斯くの如き場合が無いではない。例へばブルシユが一八二〇年に發見した三歳の男兒は春機發動機の徴候を悉く供へてゐたといふ。其の聲は十五六歳の少年に似て居り、弛緩した陰莖の長さは九・六仙米突、根元に於ける太さは七・二仙米突で、小女又は婦人の面前では陰莖勃起し、舉動活潑となり、女性の生殖器に手を觸れようとしたといふ。自瀆は行はなかつたが、その他多くの早熟的徴候を有し、第一門齒は生後

三ヶ月にして既に上顎に生じたといふ。

ブルシユは又メアードの報告した或る男子の實例を擧げてゐる。此の男兒は生後一ヶ年ならざるに早くも春機發動期に達し、五歳にして大人の如き容貌をもつてゐたが、肺結核の爲めに早世した。其の他五歳にして性的部分の完全に發達し、鬚髯其の他の男性的徴候を具へたものゝ例を擧げてゐる。

ガルの腦相學が流行した時、斯うした性慾早熟の原因を、ガルが性慾の中樞とした小腦の著しき發達であるとした。

榊博士が松葉腺疾患の例として諸家の實例を擧げてゐる。今其の内の一二例を紹介する。

四歳の男子（病名松葉腺畸形腫）生來活潑の兒なりしが、三歳の頃より臆病者となりて身體は急速に發育し、精神と歩行とは障害せら

るゝも、食慾大に振ひ、陰莖は著大となりて其の長さ九仙米突を算し、睪丸は鳩卵大に増大し、陰毛は一仙米突の長さにまで發育し、制し難き手淫の癖に陥れり。（エイブネル）

五歳の男子（病名松葉腺神經膠様肉腫）

身長一二七仙米突にして陰毛並に鬚髯を發生し、二歳に達せざる前より早已に陰莖増大且つ勃起して、時々射精するも快感は伴はざるが如く、而も其の精液を鏡見せしに確かに精虫（精子）あるを認めたりと。（ベリッツイ）

象現の慾性態變

然るに如上の場合と反對に、全部の發達が遅く、後年に至つて漸く性慾の成熟するものがある。即ち俗に云ふ侏儒と稱するものであつて、其の性慾状態を研究して見ると種々の興味ある發見に遭遇する。一般に侏儒と稱するものには佝僂病のために其の發達を妨害されたものを含んで

あるが、科學上の侏儒といふのは、身體全部の發達の小さいながらも平均してゐるものを云ふ。

モールは此の侏儒が共同生活をしてゐる處で、其の性慾状態を研究し、皆特殊の状態にあるのを發見した。彼れ等は同一の家に住み、共同の勞働に従事してゐるが、男女兩性の間は極めて冷淡で、互ひに敬語を用ひつゝ交際をしてゐる。男性の性慾機關は皆完全に發達してゐるが、たゞ三十歳になる一人の侏儒は其の發達極めて不完全であつた。性慾の發達も普通であつたが、皆年長者に愛着をもつてゐたさうである。

或る伊太利人は性慾の發達不完全で、二十八歳に至つて初めて陰毛を發生したといふ。然し或る研究者は侏儒にして男女間に戀愛生じ、妊娠した事を報告してゐる。これを要するに、老年に至るも性慾の減退せぬ所謂性慾違期症と稱すべきものは非常に多數であるが、純粹の晩熟性慾

は餘り澤山無いものと見へる。

猶、性慾鈍麻即ち性慾缺如等の病的な例もあるが、其れ等を一々茲に擧げて説明する事は煩はしくもあり、餘り必要もないから、凡て然うした病的現象に就ては、本書の發行元から別に「生殖器病全書」といふ一書を出す事になつてゐるから、其れに委しく説明する事にする。

第七章 賣淫と結婚

一 賣淫及び賣淫婦

以上、諸君は性慾に就て大體の知識を得られた。これを要するに、性慾は一面より見れば最も汚穢厭ふべきものであるが、他の一面から見れば崇高純美の極致であつて極めて神聖なものである。而も此の神聖なる

性慾を神聖なるものと見做さずして、不潔なる性交によつて劣情を満たさんとする者がある。其處に需要供給の關係が起つて、これを満たさしめんとする機關が生じた。賣淫が其れである。

實に賣淫程不潔中の不潔、汚穢中の汚穢なるものは無い。——と斯う云へば、如何にも道學者らしい口吻で厭味に聞えるかも知れないが、今更ら茲に繰り返すまでも無く、性慾は自然の攝理である。吾人が神聖といふ陳套な言葉を以てするのもこれが爲めで、自然の攝理あるが故に神聖なのである。而も賣淫なるものは幾枚かの貨幣によつて侵す可らざる自然の攝理を冒すのである。神の主權を冒すのである。冒瀆でなくて何であらう、汚穢でなくて何であらう。

我が國の賣淫なる語は獨逸語の所謂 プロスチテューション Prostitution 即ち「自己を提供する」といふ意味で、これだけでは賣淫と云ふ事が出来ないが、其の自己

を提供するとは、他人の要求に應じて甘じて自己の肉體を提供する事即ち賣淫の事となるのである。我が國には賣淫の外に賣笑、賣色、賣春、醜業等種々の異名があるが、何れも相當の代償即ち報酬を得て性慾を露ぐ義である。

佛國の性慾學者レイの定義によると、「賣淫とは淫行を目的とする婦人が、代償を得て男子に自己の身體を提供する事を云ふ」とある。此の定義を分解すると、

- (一) 淫行を目的とし、
- (二) 男子を相手とし、
- (三) 必ず代償即ち報酬を受くる事、

の三條件を具備したものが賣淫となるのである。

茲で議論の起るのは、たゞの一回の淫行でも左の三條件さへ具備して

居れば賣淫となるかといふのだが、これは言葉の上の相違であつて、たゞの一回でも賣淫には相違ないのだが、たゞ營業的賣淫とはならないのである。例へば親が貧困な爲めに餘儀なく一度其の身を他人に任せたと

いふやうな場合は、廣義の意味に於ける賣淫には相違ないが、狹義の意味の賣淫即ち營業的賣淫にはならないのである。其の行爲が屢々が反覆される事によつて賣淫とされてゐる。然しこれは賣淫の法律的解釋であつて、實際は只の一回であらうとも賣淫は賣淫に相違ないのである。

要するに賣淫には廣狹の二義があると思へばよい。廣義の賣淫は頗る其の範圍が廣く、正婚以外の性交にして單に有形の報酬のみならず、或る種の無形の報酬、例へば對者より好意を得んが爲めの性交の如きはこれに屬するものである。好意を得んと欲する性交は、即ち、

(一) 接待賣淫　で、これは何ういふものかと云ふと、若し一家内

に客來のある時、主人は自己の利益の爲め、或ひは尊敬する處の客である等の場合に、自己の妻又は娘或ひは女奴隸を提供するのである。そして客が若しこれを辭退する時は却つて禮を失するとされてゐる。これ等の惡風は南洋にも行はれ、又亞細亞に於てはヒマラヤの西方或ひはカムチャツカにも行はれ、其の他東洋の覇權を以て任じてゐる或る國にも其の面影を傳へてゐる。次ぎは

(二) 宗教賣淫　である。これは古くバビロンに行はれ、後希臘に傳はつて、今尙孟買では盛んに行はれてゐる。これは寺社の殿堂で我が國で云へば巫女のやうな舞妓が、參詣者の希望により肉を提供し、一種の報酬たる賽錢を得るのである。今日の娼妓藝妓の玉代なるものは茲に起源を發してゐるのだと云はれてゐる。堺枯川君は其の著書に賣淫の起源は此の宗教賣淫であるから、今日の花魁や藝妓も存外神聖なものだと

云つた意味の事を云つて失笑してゐるが、又一面の眞理である。南洋の
一小島では、僧侶は神の保護のうちにあるものだから神聖であるといふ
考へから、女子は自己を提供するのを常としてゐる。これは南洋ばかり
でない。現に我が日本でも今尙盛んに行はれてゐる。吾人は曾て日本に
於ける最も勢力ある〇宗の〇〇寺の僧侶であつて、其の内面の腐敗に憤
慨して断然其の宗派から脱した僧侶某君から實際に聞いた話したが、其
の〇〇寺の連枝と稱するものが地方へ巡錫に出掛けると、各地の富豪や
権門が争つて自己の娘を旅のつれづれに提供する。そして一度でも其の
生佛のお手がついた娘は、所謂お剃刀を頂いた處ではなく、非常な名譽
と勢力とを得て、他の富豪や権門が争つて嫁に懇望するのださうである。
これなども明かに宗教賣淫である。又、或る地方では婦人が神を尊崇す
るのあまり、寺院内で衆人に自己の肉を提供する事がある。前に云つた

寺院の巫女は此の婦人の變化したもので、初めは諸々の婦人が寺院内で
衆人に提供してゐたのが、段々營業的色彩を帯びて来て、遂に巫女とい
ふ専門家が出來たのだといふ。次ぎは

(三) 祭禮賣淫 である。戀愛祭とも稱し専ら亞細亞地方で行はれ
てゐる。此の種のものも我が國の地方では（今は無からうが遂此の間ま
では）行はれてゐた。祭日殊にお盆と稱する日に若い娘達が美々しく飾
り立て、若い男の眼を惹いて其れづれの男を得、野合的に肉を提供する
のである。彼の盆踊りと稱するものも一年に一回の肉の提供日を意味し
た遺風である。昔希臘に校書隊とも稱すべき一隊があつて、武人が戰場
から歸つて來ると、此の一隊に向つて競ふて突貫し、己が好む美人を得
て飲酒に耽り、享樂の歌を謠ひ、其の豪快を誇つたものださうである。
我が國にも戰國時代には白拍子なるものがあつて、武士は大いにこれを

愛し、又白拍子自身も自己の戀人となれば殆ど一生を提供した。これ等も勿論報酬を得るが、これは一種の戀愛を喚起して一生を男子に托したのである。先づ今日妾といふ一種の賣淫があるが、其れと思へば間違ひはない。尙、日本賣淫史に就ては次項で委しく説明する。

此の外に純粹の營業的賣淫があるのである。即ち若干の報酬を得て提供する最も露骨なものである。

偕て、此の賣淫なるものは如何なる要求から起つたものか、今其の根本的起源を略述すれば、元來人間の慾望に二つの重大なものがある、即ち食慾と性慾である。人類は食慾によつて自己を養ひ、性慾によつて子孫の繁殖を計る。故に此の性慾は子孫の繁殖を計る爲めに大切なる一のミーインスである。これを行ふ處の形式には種々あり、文明人となるに従つてこれを神聖視し、人間一生中の最大重要な儀禮の一として、婚

姻と稱する形式をとるが、未開人種は唯だ自己の性慾の勃々たる處、其の如何なる婦人なるを問はず、其の慾を満たしてゐる事は既に述べた通りである。

斯くの如く文明人は婚姻なる形式を以て最善の方法としてゐるが、文明の度が愈々進み、社會の秩序が益々整然たらんとする時、其處に生活難が生じ、其の結果容易に結婚し得ないものがあるやうになつた。(結婚すれば妻子を養はなければならぬ。)これ等の輩が其の本能を抑ゆる能はず、何處かに於て最も簡單に此の慾望を満たさなければならなくなつた。又一方やはり生活難の爲めに、女子として最も簡單な商買即ち賣淫をして飯を喰はなければならぬ女が出来、茲に需要供給の關係が生じて、賣淫といふものが出来上つたのである。故に賣淫は要するに貧困の結果だと云つてゐる學者がある。其の譯は、買ふ方も貧困の爲めなら、賣る

方も貧困の爲めだからである。

併し又一面から觀察すると、生活に餘裕が無くて結婚する事の出来な
い者が賣淫婦に接近するよりも、生活に相應の餘裕があつて家に妻を娶
つてゐる者が却つて多く賣淫婦に接してゐる。其處に賣淫經濟（も可笑
しいが）に變動を生じて、初め極めて安價に且つ簡単に賣り買ひしてゐ
た賣淫の値段が暴騰し、又従つて貴族的趣味の添加を見、愈々以て貧困
者は近づけない事になつて了つた。つまり初め貧困の所有であつた賣淫
は、財力によつて富有者に捲き上げられて了つたのである。社會主義者
風に云へば、茲にも資本家の横暴を見るといふ處である。

又、斯ういふ見方もある。シルレルは美術の起源を人に遊戯心がある
爲めで、これをスピイル・トリーフの作用と云つてゐるが、スピイル・ト
リーフは生活力に餘裕ある者が其の活力を消費せんが爲めの發作であつ

て、一方に於ては精神的に美術の製作、觀賞となり、他の一方に於ては
肉體的に性慾食慾の飽滿となつて現はれる。此の意味から生活に餘裕の
無い者よりも、生活に餘力のある者の方がスピイル・トリーフの作用の
強いのは當然であつて、これが彼れ等の淫賣婦を獨占する理由ともなり、
淫賣婦との性交が全く生活の餘裕から生ずる遊戯的のものであるといふ
證據にもなるのである。

十九世紀の初め佛蘭西の有名な賣淫學者パレン・ヂュシヤテレーは賣
淫を下水に喩へ、不潔物に對する下水であると云ひ、トーマスは都會に
ある處の賣淫は宮殿の真中に雪隠があるやうなものだと云ひ、皮膚學者
カボレーは賣淫は正しき結婚外の性交を遂げんが爲めに起れる文明史上
の一大事實なるを以て、吾人が歴史中にある以上賣淫を絶滅する事は到
底出来ないといつてゐる。

賣淫は斯くの如く避くべからざる人間の生存の上から來たものであつて、遺憾ながら到底防壓し得べきものでない。既に防壓し得べきものでないとすれば、國家はこれに適當なる施設を爲し、少しでも其れに伴ふ害毒（例へば花柳病の蔓延）等を防壓しなければならぬ。茲に於てか賣淫は單に宗教、道德、衛生のみの問題ではなく、國家問題として研究されなければならなくなつた。

そこで今日賣淫は、國家として如何なる方法に取扱つてゐるかといふと、世界の國々によつて異つてゐる。或る國は全く不潔去る可しとなし賣淫を禁じ、或る國はこれを默許し、又或る國は公許する代りに取締を嚴にする等種々雜多である。今これを分類すると、左の四種類となる。

(一) 禁絶主義

(二) 默許主義

(三) 自由主義

(四) 制限主義

(一) 禁絶主義　此の主義は賣淫の廢絶を圖る爲めに全くこれを禁止する主義であつて、恰も雪隠及び下水を家宅から取り除かうとするやうなものである。此の政策は人道上極めて適切で、何人も理想とする處であるが、遺憾ながら賣淫は決して根底から禁絶し得べきものでない。表面峻嚴なる主義政策によつて禁止すると、裏面には却つて怖るべき害毒を流布する。其れは假りに東京市の便所といふ便所を盡く取り除いて了つたなら、市民は一體何處へ糞便をするであらうかといふ事を考へて見ても解る事である。

(二) 默許主義　此の政策は賣淫に對して自由も與へず、又禁止も斷行しないもので、何れかと云へば公認に傾いてゐる。此の政策は賣淫

禁絶の困難と開放の弊害とに鑑みて、未だ何れとも解決のつかない場合に
行はれる。

(三) 自由主義 又は開放主義といふ。賣淫に對して何等の制限なしに公許したものである。一は賣淫に關する知識未だ開けざるが故に、恐るべき病毒の附隨する事、社會風教上に大害ある事を知らず、たとひこれを知つてゐても豫防する知識が無く、自然に放任するもの、他の一は禁絶主義も次ぎに説明する制限主義も其の効果渺いのに失望して遂に此の主義を取るに至るものである。

(四) 制限主義 又は干渉主義ともいふ。此の政策は賣淫を一種の營業として認めこれを公許したものを云ふ。此の點は默許主義に似た處があるが、前者は公許でないのが違ふ。此の政策は政府の規定したる命令の下に賣淫業者は公然營業する事が出来るのであるから、體面上極め

て汚穢醜惡のやうであるが、若し賣淫を禁止する時は禁絶主義の項下で述べた如く姦通、野合、私生兒の増加、花柳病の傳播等却つて社會に害毒を流すに至るので、此の主義を採るは又實に止むを得ないのである。今日行はれてゐる賣淫制度に就て大要を述べれば、左の二種類に分つ事が出来る。即ち

(一) 公娼

(二) 私娼

であつて、

(一) 公娼 は官廳の許可を得て營業するもので、我が國では妓樓にある處の賣淫婦即ち娼妓を指すのであるが、西洋では公娼を更らに左の二種類に分つてゐる。

(イ) 散娼

(ロ) 集娼

(イ) 散娼といふのは市街へ自由に居住して客をとる娼妓で、一名街娼とも云ひ、獨逸、埃國、佛國等に多い。

(ロ) 集娼といふのは一定の地域妓樓に居住し營業する娼妓で、日本の貸座敷に於ける娼妓はこれに當る。

(二) 私娼　これは密娼とも云ひ、官廳の許可を得ず密かに賣淫を働くものを云ふ。現代に於ては寧ろ公娼よりも私娼の増加する傾向がある。何故に私娼が近來増加するかといふと、私娼には檢査其他種々なる制裁がないからで、歐羅巴の統計によると、百萬以上の大都市では人口百萬に對して三千人の公娼を要する。然るにこれに對する密娼の數は實に十乃至廿倍に當るといふ。此の比較から、我が東京にも三千人の娼妓ありとすれば、三萬人乃至六萬人の私娼を有する計算となる。然し公

然たる數は極めて少い。これは現行を捕へられたもの、みの數であるからである。

我が東京に於て現在警察が風俗上の取締を要するものは宿屋、待合、貸席、氷店、料理店、飲食店、芝居茶屋、大弓場、藝妓、貸座敷等の雇女で其の數實に三萬人だといふ。然し未だ此の外に玉突場、活動寫眞、女優等もあるから、實際の數は恐らく四萬人を下るまい。

西洋人ではレストランや踊り場が私娼の働き場で、安下宿などにも盛んに跳梁してゐる。巴里の賣淫婦は裁縫店又は呉服店と連絡をとつて、珍らしい服が出来れば其れを着て町を散歩しながら、各國から入り込んでゐる男の財布を絞り上げる。面白いのは燕女と稱する賣淫婦で、建物の角の窓の處を占領し、其の窓からお白粉を装つた顔を見せ、又は衣服をチラ／＼見せるなど、恰も燕のやうな舉動をして客を誘引するのだと

いふ。

如何なる女が如何なる動機経路によつて賣淫婦になるか、左に米國紐育市の警察裁判所の監査吏として、身親しく幾多の賣淫婦を手がけたマインナー女史といふ人の著書から一例を借用する。山田わか君の翻譯である。

「放逸にして悪性なる人物と交り、墮落の恐れあるものなり」これは判事がフロレンス・ホアイトに云ひ渡した言葉である。十六歳の娘フフロレンスは驚懼し、困惑し、そして、耻ぢて判事の前に立つてゐた。けれども如何なる運命をも忍ぶ覺悟はして居た。そして、其の運命は、父のあらゆる威し文句より最悪なものであらうと豫想して居た。フロレンスの父の名が呼び上げられた時、瘦せた、丈の高い男が證據人席へ急ぎ足で登つて行つた。そして、昂奮した、

決心した語調で「私は娘にもう一度の機會を與へる事を拒みます。彼女が二十一になるまで、何處でもよう御座いますから、一步も外へ出られない處へ彼女を入れて下さる事をお願いします」と判事に向つて云つた。彼は、又「二週間前です。私は彼女を此處へ連れて來ると云つて嚇しました。其れで彼女は逃亡したのです。以來、私は夜を日について彼女を探し歩き、やう／＼昨晚捕へたのです。彼女は或る男と同棲して居ました。彼女は其れを拒む事は出來ますまい」と云つた。

判事はフロレンスに向つて、父と一所に父の家へ歸るやうに諭して見た。けれども、彼女は頑として反抗的な態度をして、そして云つた。「閣下が私をどう處置なさらうと私は決して不平は申しません。けれども、私はうちへは歸りません。父は私を追ひ出しまし

た。そして、私は追ひ出されて居ります」判事は此の問題を解決するためにフロレンスを監査吏の許へ送つた。彼女は法廷にゐる間の張詰めた心が緩むと同時に今迄の反抗的な態度は失せて、急に兩手で顔を覆ふて泣き出した。静かな氣持ちに歸つた時、彼は話出した。

「實に、私はかうなつたのが悲しうムいます。私はかうならうとは思ひませんでした。私は私自身の事はかまいませんけれども母に心配させるのが苦しう御座います。もし、私の父が私を嚇したり、私を追ひ出すなど、云ふ事を常に云はなかつたならば、私はうちを出なかつたかも知れません。父はあらゆる悪口を私にあびせかけます。私はうち程いやな處は外にないと思ひました。」

「父は私の小さい時から、私には辛らくあたつて居ました。私は始終彼を恐れ、彼を嫌つてゐました。私が一ツの過失をした事は實際です。が、私が其れをして以來、父は決して私を許して呉れません。父は朝に晩に、其の事を云つてゐます。そして、始終、私を疑つてゐます。私共がサンタフェからあまり遠くないニューメキシコの或る耕作地に住んでゐたのは二年許り前の事です。丁度、其の時でした。レーモンドといふ醫者の息子が馬に乗つて散歩したり、又、夜會へ行く時など、いつも私を連れて行きました。彼は、毎晩、學校の歸りには私を誘ひました。そして、私は彼と一所に彼のうちへ行くのが常でした。さうしてゐるうち、或る日、彼は彼が私を愛する事と私に結婚したい事とを云ひ出しました。私達は私の父が決して承諾しないのを知つて居ました。私達は仕方ありませんから、夜のうち、うちを脱け出して、そして、近所の小さい町へ行つて結婚

しやうとしました。けれども、私達が町へ行くにはうちの前を通つて一ツの原を横ぎらねばなりません。で、さうかうして居るうちに私達は私の母に捕まりました。それで、とう／＼町へ行く事はだめになりました。私は凡てを母に告白しました。すると其れが大騒ぎになりました。父は私にものを云ひません。私を外へ出しません。私は四人のやうになつてしまいました。其のうち私の祖父さんが死にまして、お母さんは急いで東部へ行かなければなりません。父は二週間以内に私を連れて後から行く事になつて居ました。私は出立する前の日に工夫をしてレーモンドに逢ひました。彼は是非私に行つて呉れるなと頼みました。彼は私なしに生きて居られないと云ひました。そして、結婚してくれと云ひました。私はレーモンドと一緒に、父に見付からないやうに或る酒屋の裏のとある家に其の

晩かくれました。レーモンドは一先づ自分だけでデンバーへ行つて、凡てを用意して置いてそれから私を迎へに來ると云つて出かけました。私は彼の言葉を信じて待つてゐました。けれども、彼はとうとう歸つて來ませんでした。其のうち、父の友人が私を見付けて私を尼寺へ連れて行きました。其處から私は、ボストンへ行かうとしてゐた二人の尼と一所に東部へ參りました。尼達は私を紐育へ置いて行つてしまいました。

私は父に顔むけが出来ないと思ひました。父は恐しく私を譴責します。私は以前よりは一層不幸になりました。其の後、私は或る商店へ働きに行く事になりました。其處で私は或る外の男に出逢ひました。彼は晝食をたべに私を誘ひました。そして、モデルとして、上町の或る所へ私を連れて行きました。私はレーモンドを愛したや

うに彼を愛す事は出来ませんでしたけれども彼が私に結婚を求めた時には、私はさうしやうと思ひました。けれど、私は決して幸福でないのを知つてゐました。だん／＼うちに居てはうまく行かなくなつた時、彼は私を連れ出すと申しました。それ迄、私は悪い目的のために多くの旅館のある事を知りませんでした。彼は私を約束通り正當な場所へ連れて行く替りに、悪い人間の澤山居る悪い旅館へ私を案内しました。それから又、彼は或る家に私を連れて行きました。其處で、私は父に捕つたのです。もうどうなつてもかまいません。新聞には私の逃げた事が書いてあるし、寫眞まで出てゐるんですもの。世間は皆私を見下げるでせう。私は、もう誰にも顔を合せ

る事は出来ません。

「いゝえ、私は判事に皆話しました。私はうちへ歸りません。父が

うちに居る間は私はうちへ歸りません。父はどこかへ行つてしまふなど、嚇すつもりで云ひますが、私は父がさうする事を望んで居ます。父に對してさう云ふ感情を持つのは悪いといふ事は知つてゐますが、彼が私にさうさせたのです。もし、あなたが何處かへ働きに私をやつて下さるなら私は一生懸命働きます。私は收容所へ入れられるを好みません」

一時間後、フローレンスが再び判事の前に立つた時彼女は判事の親切な言葉を聞いた。

「今回はお前を寛大に處置しやう。收容所へもやらないし、又うちへ歸れとも云はない。お前はこの監査吏の御世話になつて、何處かへ連れて行つて貰つたがいゝだらう。」

此の娘は何うやら早く捕まつたので、未だ賣淫はしなかつたやうであ

るが、若し父に捕まるのがもう少し遅かつたら、其の所謂「悪い人の澤山居る悪い旅館」や「或る家」で立派に賣淫婦になつてゐるのであつた。賣淫婦は大抵斯うした經路を踏んで墮落した者が多いのである。

二 野合、姦通及び蓄妾

野合とは正當の夫婦ならざる男女の性交を營む猥劣なる舉動であつて私通、出來合ひ、轉び合ひなどいふ異名がある。これに左の三種の別がある。

- (一) 定期的野合
- (二) 私婚
- (三) 和姦
- (一) 定期的野合 とは或る祭日の如き期日を選び、此の日に限つ

て男女は恣に相戯れ、其の人の妻たると娘たるとに論なく、凡ての婦人は皆男子の共有物となつて性交を許すのである。これは原始時代の群婚の遺風とも見るべきもので、現に亞弗利加、亞米利加の蠻族中に行はれ、歐洲では獨逸に此の遺風があると云ふ。前に云つた盆踊りの如きは正に其の遺風であつて、未だに東北方山陰地方の山國の村落などには純然たる定期的野合が行はれてゐるさうである。

(二) 私婚 とは所謂内縁の夫婦なるもので、事實に於ては眞正の夫婦に相違ないのであるが、戸籍面に登録せられないが故に、法律上夫婦と認めないものである。併し然うした夫婦關係を此の項目に入れるのは少し酷である。實際世間には立派に結婚式も行ひ、又お互ひの間に眞な愛も成立し、世に間對しても自分等の良心に對しても少しも耻しくない夫婦が何かの都合で内縁になつてゐるものが澤山にあるのである。

又、法律上手続きに及んだ夫婦に却つて随分世間に對しても自分等の良心に對しても耻しいやうな夫婦が多いのである。然し我が國に私婚の多い理由は左の三つの原因によるとされてゐる。

(一) 眞に結婚の意なく、唯だ一時的結婚をなす者

(二) 試験的に結婚をなす者

(三) 老年の再婚にして名を憚る者

若し私婚なるものが右の三つの理由によるものとすれば、元より唾棄すべきもので、此の項目に入るべきは正しく斯くの如き私婚である。

(三) 和姦 とは廣い意味に於ては野合、私通等の總稱であるが、

狹義に解釋する時は内縁の夫を有する婦女が他の男と私通するものであつて、道徳上から云へば純然たる姦通であるが、法律上では刑法に問ふ事が出来ないものを云ふ。(尤も此の頃聞いた處によると、和姦でも姦

通に問ふ新判決例が出たとか云ふが)和姦は次に述べる姦通と頗る似てゐるが、其の相違する處は法律上正當の夫婦と認むべき法律上の手續きを履行した婦女が、他の男と通じた場合を姦通と云ふのである。

我が國の刑法で姦通の罪となるものは主として有夫の婦女及びこれと性交せる男子であつて、正當の妻ある男子が他の婦女に戯れ性交を行ふとも其れは毫も問ふ處でない。即ち有夫姦である、然し、歐米の法律はこれと異り、有夫姦の外に、有婦妻の夫が妾を蓄へ或ひは賣淫婦に戯れ、其の他の婦女と通じた場合にも等しく姦通罪となるのである。

我が國の刑法が獨り有夫姦を罰して、有妻姦を罪に問はないのは、古來からの男尊女卑の遺風と見るべきものである。前に述べた接待賣淫の變形より來れる姦通も又これに屬する。又姦通を恐喝に利用したものに所謂美人局なるものがある。

妾とは一種の密賣淫である。たゞ普通の密賣淫と異なる處は一人の男に對する時間の長短だけである。而も密賣淫に罪ありて妾には罪がないのである。

我が國では妻の外に妾を認めて、妾腹の子を庶子として届け出る事を得るが故に、密かに妾を蓄へて劣情を恣にし、甚だしきは公然家に入れて妻と同棲せしむるものさへある。支那の第二夫人、第三夫人の如きも純然たる妾である。

學者によつて妾を公娼の中に入れるものもあるが、吾人は如何なる方面から考へても私娼に屬すべきものであると信ずる。何となれば公娼は一定の手續を経、且つ一定の區域内に於て營業するを許されたものであるが、妾は何等手續を経ぬのみか、如何なる處にも自由に居住し、自由で營業されるからである。然らば何が故に我が國の法律は妾なる密賣

淫を罰しないかと云ふと、前に云つた如く一定の期間を一人の男に専屬するからで、要するに罰せらるべき密賣淫との相異は時間の長短に過ぎないのである。此の期間は相互の契約によつて定まるもので、其の契約の長短によつて妾を區別すれば、

(一) 永久的の妾

(二) 一時的の妾

と二種となる。前者は内縁の妻即ち私婚の性質を帯び、後者は純然たる密賣淫婦に屬すべきものである。

三 婚姻の起源と沿革

婚結と淫賣

婚姻とは或る形式に従ひ、相互規約の下に男女が正當に結合する事を云ふ。其の形式様式は土地及び民族によつて異なるが、要するに婚姻は一

種の賣淫であつて、其の歴史を索ぬれば、野合若しくは姦通よりも、規則正しく賣淫から變遷し來たつたものである。

今日行はるゝ結納の如きは、正しく婚姻が賣淫から進化した遺風であつて、これは元婦女を買収して獨占するに際し、其の婦女の價格に對する報酬として、男から其の父母に拂つた代償である。斯くの如く婦人を買収する事は廣義の意味に於ける賣淫であつて、婚姻は斯くの如く賣淫から進化したものである事は、其の歴史及び今日野蠻人間に行はれてゐる奇習等によつても知る事が出来る。

婚姻の最も賣淫に近いのは原始的の状態にあるもので、此の時代に於ては婦人の位置頗る低く、婦人はたゞ男子の性慾を満たし、洒掃薪水の勞をとるべきものと見做されてゐたので、婚姻の如きは奪掠、賣買によつてこれを爲し、又其の最も賣淫の性質を帯べるものに定期婚と稱する

ものがあつた。

(一) 奪掠婚

とは結婚せんとする男子が、突然婦人を奪掠して來て己の妻とする事で、最も原始的なる婚姻である。今は多く濠洲、南洋諸島及び太平洋諸島に此の面影を傳へてゐる。此の種の婚姻をなす種族は一夫多妻であるのを常とする。そして其の奪掠手段には頗る残忍なものがある。恰かも獸類を狩るが如く、棍棒、槍、其の他の武器を携へ他の部落に侵入し、其の家族を殺害して獨り意中の婦人のみを奪ひ去る事がある。斯る奪掠によつて結んだ男女の間には、夫婦の愛情のあるべき筈なく、婦人は男子の附屬物の如く、全くその自由を束縛され、酷使冷遇にさらざる所無きは云ふまでもない。

(二) 賣買婚

は奪掠の稍々進歩したものであつて、其の希望する處の婦人に對し、一定の價を拂ふのであるから、其の性質が極めて賣淫

に近い。要するに賣買婚は奪掠婚の變化したもので、奪掠の形式を買收の形式に更へたまでである。此の場合婦人は一個の商品として取扱はれ、奴隸以上に酷遇されたのである。(第二章「性慾の文化的發達」参照)現時賣買婚の行はれてゐるのは、亞米利加カリフォルニアのカロク人、シヤチカ人、英領コロンビア及びバンゲーバ島の土人、亞細亞のカールミツク種族等である。

今日文明國人の婚姻は一夫必ず一婦を娶るに過ぎない。所謂一夫一婦を式とするが、野蠻人、未開人及び開化の初級にあるもの等に於ては、一夫にして多妻を娶る處があり、一婦にして多夫に見ゆる處がある。即ち一夫多妻、一婦多夫である。

彼のモルモン宗及びマホメット教では宗教上の教義に基いて一夫にして數名乃至數十名の婦を迎へ、又土耳其、波斯、印度等は宗教上の教

義によらずとも、一夫にして同時に數名の婦と同棲するものがある。隣國の支那及び我が新領朝鮮でも正妻の外に尙ほ數名の妾を蓄へ、事實に於て多妻式である。

一婦多夫式といふのは一人の婦が多夫に接するものであつて、例へば西藏人が一家數人の兄弟で一人の婦人を娶つて妻とするやうなものである。そして西藏人の妻は其の何れの夫に對しても一樣に柔順なる態度を以て接しなければならぬ。西藏に於て良妻と稱するものは實に斯る婦人であつて、其の夫により愛情を異にし待遇を更へるやうな妻は不貞として擯斥せられるのである。

これは現代には存在しない事であるが、國家の共同婦人なるものがあつて、其の如何なる婦人にも接し、婦人は誰れ彼れの別無く多くの男に見ゆる事の自由なものがある。言ひ換れば、凡ての婦人は同時に凡ての

男子の妻であり、凡ての男子は同時に凡ての婦人の夫なのである。これは古代希臘に行はれた處の共同結婚であつて、彼の武をもつて鳴つたス

バルタ人は此の主義を採り、婦人及び小兒は國家の共有であつて、誰れの妻、誰れの子といふ事は無いのである。勿論これとは形式が違ふが、

此頃露國の勞農政府では、稍やこの主義に近い政策を採つてゐる。一體社會主義ソシアリズムの理想から云へば、斯うした男女關係こそ眞に理想の夫婦關係とされてゐるのである。所謂自由戀愛なるものも茲から出發してゐる。

米國の人類學者リュウイス・モルガンは結婚が今日の一夫一婦制に進化するまでには、左の五形式を経てゐるといふ。

- (一) 亂婚時代 誰れと誰れが親子やら兄妹やら解らなかつた時代
- 丁度猫や犬と同じやうな時代があつたのである。
- (二) 血族群婚時代 これは兄弟と姉妹とが自然に一群の夫婦をな

した時代で、勿論誰れと誰れが夫婦と極つてゐたわけではない。前の亂婚がやゝ一群若しくは一族に偏したものである。

(三) 血族對血族群婚時代 これは同母の兄弟姉妹ならざる一群の兄弟と、他の姉妹との團體的婚姻である。

(四) 一時的・一夫一婦時代 一男一女の結合ではあるが、其の離合が極めて自由且つ容易で、母系制度の下に於ける男女結合の様式である。

(五) 一夫多妻時代 これが母系制から父系制に男女關係の變つた時代の婚姻である。男權は此の時代に確立された。

續いて今日一般に行はれてゐる一夫一婦時代が來るのである。

四 婚姻の準備

前に述べた如く婚姻は賣淫の進化したものであるが、今日文明國に行

はれてゐる婚姻を直ちに賣淫であるといふ事は出来ない。例へば今日の人類は原人から進化したものであるが、今日の文明人を原人であるとは云へないのと同じ事である。併し今日に於ても尙生活に對して無能力な婦女子が、たゞ生活の安定を得んが爲め若しくは虚榮に憧憬して結婚する場合があれば、其れは均しく賣淫の性質を帯びてゐるものと云つて差支へない。

我が國に近來歐米諸國に比較して離婚數の多いのは、眞に意義ある結婚をするのではなく、前に云つたやうな虚榮或ひは生活の爲めに婚姻せるものが多い爲めでは無からうか。

凡て結婚の條件としては、愛情と性質と體質と收入とが適合しなければならぬ。然るに虚榮或ひは生活の然めに結婚する者は、これ等の要件に關しては殆ど顧慮する事なく、たゞ結婚を急いで所謂身を固めんと

する結果、妙齡の婦女にして枯木の如き老爺に嫁し、強壯にして青春の情燃ゆるが如き婦人が半身不隨の病者と華燭の典を擧げ、何れも伉儷の快樂を味ふ能はずして破鏡の嘆を招くに至るのである。

男子にしても單に女性の容貌のみを撰み、自己の性質、體質、年齢等に適する否やといふ事を考へないのは、決して其の結婚を幸福ならしむるものではない。彼の容貌美しき妻を持てる夫にして不品行をするのも、妻が姦通の如き不貞をなすに至るのも、多くは其の半面に精神的並びに肉體的の不調和から來た性慾の不満足が伴ふからである。

適當な年齢に於て結婚する事は極めて緊要な事である。然らば適當な年齢とは果して幾才ぐらゐであるかといふに、男子は二十二才、女子は十八才より早からざるを適當とする。

歐米諸國の結婚年齢で最も若いのは、英國の男子十四才と女子十二才

で、獨逸の男子二十才女子十六才、露國の男子二十一才女子十九才等である。英國の甚だしく早婚なのは習慣から來たものであるが、斯くの如き年少の女子が妊娠すると、骨盤が未熟な爲めに産兒の頭を潰し、或ひは下肢麻痺、大腿脱臼等から一生歩行し得ないやうな事がある。又其の生れた子の能力の上にも多大の弊害がある。

早婚の害は支那、印度、朝鮮等が最もよき例を示してゐる。即ち彼の國々の子孫の薄弱なる、痴兒の多き等は早婚の弊害を吾人に教へて餘りあるものである。

早婚 害ある如く晩婚も亦害がある。人間は四十五才から五十才になれば身體が非常に衰へて、充分な性慾及び生殖作用が行はれないものである。性慾及び生殖作用は人生に於ては精神的愛情と一致しなければならぬ。これが完全を求めんとするには、双方の體質及び生殖器の健全

なる事及び遺傳に就て充分の撰擇と熟慮とを要する。

吾人が煩はしきを厭はず此の書の生殖器の構造を説ける項下に其の異常の一般を示したのは、實に其の必要からであつた。尙生殖器の疾病としては花柳病といふ怖るべきものがある。又性慾缺乏症の如き、不妊症の如き、人生に最も不幸なる疾患がある。其れ等も一々説明すべきであるが、其れは前に一寸述べて置いたやうに、本書の出版元から別に「生殖器病全書」といふ書物を出す事になつてゐるから、其れに詳細説明する事とする。

遺傳の怖るべき事は今更云ふまでも無からう。彼のフランシス・ゴルトンによつて唱へられユーゼニックス即ち人種改善法も此の必要から生れたのである。(遺傳に就ては他日別に一書を發表する事とする事になつてゐる。)

尙、茲に貞操といふ重大な問題がある。文明人の結婚は必ず一夫一婦であつて、夫婦間の貞操は絶對的道德となつてゐる。元此の貞操は原始的結婚時代の嫉妬の情から來たもので、女子に貞操を強要して男子に貞操の無いのは、前述の如く女子の地位頗る低く、恰かも物品の如く取扱はれ玩弄され來つたが爲めで、女子が貞操を破る時は峻烈なる制裁があつても、男子は數人或は數十人數百人の女子に接して何等制裁が無いのである。

斯くの如く貞操の觀念は感情から來り、遂に今日文明人の間に貞操觀念として進化したのであるが、從來學者は科學に立脚して貞操といふものを研究した事が無かつた。

然るに今から六七年前維也納^{ウイーン}の醫家ワルドスタイン、エトクレルの二家が動物試験の結果、生殖行爲は男性の生殖素が女性の血液の中に入り、

これに對する特種の醱酵素を生せしむる一種の化學的反應の起る事を發見した。此の新事實は從來の世人の考へを根本的に改造して、單に一回の性交と雖も、男女間に肉體的關係が明かに成立する事を科學的に立證した。此の新發見は獨り學問上のみならず、人生に對する好個の教訓を與へたものである。

抑もワルドスタイン等の發見は、アブデルハルデンの發見した妊婦に於ける生物學的反應に基くものであつて、妊娠するや胎兒の小部分と見做すべき胎盤絨毛の細胞が、母體の血液の中に入る爲め、其の蛋白成分に對する特殊の防禦性醱酵素が母體内に生ずると云ふのである。此のアブデルハルデンの發見に基づいてワルドスタイン等が生殖素に對する醱酵素を發見したのである。

射出された生殖素が何うなるかと云ふ事を、モルモット、家兎等に就

て試験した時、交尾後早きは數時間、遅きは二十四時間には雌體の血液の中に精子に對する特殊の防禦性酸酵素が現出する事を發見した。此の試験の結果、精子は射出後直ちに女性の血管内に移行進入して化學的變化を起さしめる事を考へらるゝに至つたのである。

女子の血液内に此の化學的變化を來たすといふ事が、やがて女子が全然受動的なものである事を明白に示してゐる。女子が初めて異性に接した後、少し時を経て、其の身體及び精神に著しい變化を來たすといふ事は、近時フランクホルツホルトも説いてゐる。婦人が結婚後其の性質や癖まで夫に似て來るやうな神性的變化は、これまで單に心理學上から解釋されてゐたが、更らに又女性の血液内に進入した男性成分の作用に負ふ處が少くない事が發見されて、此の種の問題の理解の上に、新たな、そして有力な論據が投げ掛けられた。

性交が斯くの如く血液中に特殊の化學的變化を生ずるものであるとすれば、女子の貞操の嚴守さるべきは勿論である。同時に男子も充分に責任を負はねばならないのである。

第八章 結 論

一 性慾の二方面

人類の光輝ある進化の源は、性慾の結果によるものであつて、若し性慾衝動が無かつたなら、人類のみならず有機體の几てが、原始的状態に止まつて毫も化育進化する事が無かつたであらう。故に人類の文明は性慾によつて導かれ、發達したものだと言ふ事が云へる。

併し、性慾の濫行は人類の徳を破り、個人的にも社會的にも恐るべき

害毒を招來する事は既に述べた通りである。又、文明の發展に伴つて、犯罪者の益々増加するのは、畢竟性慾の産物であつて、其の罪其の濫行にありと云ふ事が出来る。

一面より見れば性慾は然く醜劣汚穢なものであるが、又他の一面より見れば崇高純美の極であつて、人を活かし且つ働かしむる一大動機である。モーヅリ曰く「若し夫れ人類より性慾の衝動を奪ひ、並びにこれより精神的に發生すべき一切のものを滅却すれば、恐らく總ての詩、總ての道徳的思想は人類より削除せられたであらう」と。クラフト・エビンダ曰く「道徳の全部並びに恐らくは美學及び宗教の大部分は、其の結局に於ては性慾的感覚に其の根柢を有するのであらう」と。性慾は實に斯くの如く眞善美の一面を有し、又一面には劣惡卑賤なる方面をも有するのである。故に古來大聖碩儒は性慾に對し反復教誨し、其の濫行を防いだ

のである。

茲に於てか、性慾には二方面あると云ふ事が出来る。

二 性慾教育の必要

吾人が性慾學の新學説を基礎として、此の著述に筆を染めたのは、抑も何が故なるかを一言し、此の書の結論としようと思ふ。

古來の大聖碩儒が教誨せる處のものは、多く性慾を人間の劣情なりと釋解し、殊に佛教の如きに至つては、腦髓の中に性慾の念を萌す事すら煩惱罪惡であるとした。從來は斯くの如く性慾を覆ふに無知の幕を以てし、其の純潔と羞耻的感情とを維持し得べき唯一の武器と思惟してゐた。勿論當時の生活及び人生に對する生活上の要求は、今日とは全然趣きを異にするが故に、一面より考ふれば、此の消極的方面も部分的には是認

しなければならぬ。

性慾は前に云つた如く、進化の衝動たると共に、自己の威力を益々盛ならしめんとして、有生物に一種の甘美なる快樂を與へて誘惑しつゝある。人類社會の進歩發展を性慾の衝動による事多きは争ふ可らざる事實であるが、又半面より窺へば、此の衝動が強くなれば強くなるだけ、即ち人間社會が進歩すれば進歩するだけ、其れだけ性慾によつて生ずる弊害も増加するわけである。同一の性慾から起つた作用が、一面に於ては人類社會の福祉となり、他の一面に於ては人類社會の幸福を破壊せんとし、二個の背馳した作用となるのである。

人類社會の幸福を破壊せんとするものは何であらう。先づ吾人は第一に花柳病（淋病、微毒、軟性下疳）の傳播を擧げる。文明は實に花柳病の傳播と直接の關係を有するものであつて、同時に又主従の關係を有す

るものである。故に世人は文明の進歩と共に、又極力花柳病傳播の豫防をしなければならぬ。

今日に於ける花柳病蔓延の状態は、世の想像以上であつて、人類社會の幸福は將にこれが爲めに破壊せられんとしてゐる。殊に花柳病の禍害は疾病が直接に人類の幸福を奪はんするのみならず、或ひは風規を紊し、或ひは犯罪となつて現はれ、其の他諸般の現象となつて人類社會の秩序を紊さんとしてゐるのである。

斯くの如き状態にある今日、徒らに古來の教誨法を踏襲するのみでは、決して善良なる成績を收める事は出來ない。茲に於てか吾人は科學を基礎とせる性慾學を普及し、性慾を善導し、花柳病の傳播に對抗し、且つ社會の秩序をも維持せんと努めるので、性慾教育の必要は實に茲にあるのである。

性慾教育とは古來から説けるが如き、性慾は劣情なり罪惡なりと見做してこれを排斥するのではない。生理的必要なる事を教へ、同時に其の濫行より生ずる害及び豫防法を説くのである。即ち性慾教育の要旨は、

(一) 性慾は罪惡に非ずして、有らゆる生物の自然的及び生理的の要事なる事。

(二) 然れども此の行動は人間に對して精神及び肉體の兩方面に大なる危険の伴ふ事。

(三) 然らば如何にして其れ等の危険を避くべきかといふ事。

(四) 如何にするが理想的性慾生活なるかといふ事。
を、科學的に指導教育るのである。

本書は云はゞ性慾學初步とも云ふべきものであるのと、頁數に限りがあるので、性慾教育の研究に及ばれなかつたのは甚だ遺憾であるが、若

し讀者にして一層科學的に性慾學及び性慾教育に就て高等な研究をされようと思ふならば、近々「一班性慾學」といふ可成秩序立つた一書を公けにする事になつてゐるから、其れに就て研究されん事を希望して置く。終りに本書の著者は、讀者がゆくりなくも本書によつて假令ひ通俗的とは云へ性慾に關する一通りの知識を得られた事を慶び、同時に諸君の性的生活の愈々健全ならん事を祈つて筆を擱く。

昭和二年十一月二十日印刷
昭和二年十二月一日發行

不許複製

性の講座 定價金一圓五十錢

著者 羽 太 銳 治

發行者 東京市本所區南二葉町一四
加 藤 彦 太 郎

印刷者 東京府下三河島町九三三
天 野 喜 子 三 郎

發行所 東京市日本橋蠟燭町一ノ四
昭 和 書 房

臓器製劑一斑

近來ホルモンの研究と共に臓器薬の製せらるゝもの漸次多きを加へ來つたが、左に掲ぐる帝國社の諸製薬は臓器薬に於ける優良なるものである。

スヘルマチン

ホルモン（睾丸、攝護腺、甲状腺、腦下垂體前葉）製劑にして全身的に作用し新陳代謝を促進し血液像を可良ならしめ神経系と密接なる關係を有する内分泌臓器に作用し其分泌機能旺盛血脈血流の正常、骨格の發育營養の増進筋力の増加を來さしむ。
適應症

神經衰弱（頭重、不眠、記憶力減退、食慾不逸）
生殖機能障礙（陰萎、手淫、房事過度、勃起力減退、早漏、遺精、夢精）
初老期衰耗（疲勞、倦怠、憂鬱、動脈硬化、視力減退）
初期結核

オオホルミン

卵巢より完全に其「ホルモン」を抽出せるものにして卵巢内分泌失調に對し本劑は卓効を奏し女性生體保續に對して最も重要なホルモンの代謝補充作用を營み且つ共同連鎖の緊要なる關係を有する諸内分泌臓器に關與し全身的に機能を可良ならしむ。

適應症

脱落症狀（頭痛、逆上、耳鳴、發汗、不眠、心悸亢進、四肢腰部冷感、精神憂鬱、精神異常、記憶力減退、性慾減退等）

閉經期諸症、月經寡少、子宮發育不全、卵巢機能不全。

プロタシラーゼ

脾臓の内外分泌物の有効成分を抽出せるものにして従来の植物性消化酵素と異なる弾力消化劑たり本劑の有効成分はトリアシン（蛋白質分解酵素）ステアアブシン（脂肪分解酵素）アミラーゼ（澱粉化糖酵素）其他ホルモン、グイタミン、等を殆ど天然の状態に含有し其消化力強大なり。

適應症

營養障礙、消化不良、乳兒穿色下痢、小兒粘液性下痢、胃腸疾患、一般重症患者の食餌療法、糖尿病。

チラージン

甲状腺製劑にして甲状腺内分泌異常より来る諸症狀に適應、就中甲状腺内分泌が新陳代謝機殊に蛋白質の同化、脂肪の燃焼、石灰分の同化、化骨機並に筋骨の發育、神経系、心臓、腎臓等の官能支配に對し重要な意義を有する事を想は、本劑の如何に廣汎なる應用範圍を有するかを知り得べし。

適應症

脂肪過多症、甲状腺腫、粘液腺腫、筋骨發育不全、神經機能障礙、氣管枝喘息、貧血、慢性濕疹。

マクロピン

ホルモン製劑「スベルマチン」に加ふるに神経諸症、貧血に賞用せらる、「メチールアルゲン酸ナトリウム」及び神経系統の興奮性を昇進せしむる「ストロキニート」更に腰髄にある勃起中枢に對し特殊的刺激作用を有する「ヨヒンビン」を配せる注射液なり。

適應症

生殖機能障礙（陰萎、勃起力減退、快感缺乏、早漏、遺精）
疲労、倦怠、神經衰弱、生殖機性神經衰弱、皮膚病、貧血、病後恢復期。

インベリン

脾臓より抽出せる特殊有効物質にして經口的使用により何等の副作用なく糖新陳代謝の異常機能を活かして糖尿病の症狀に精力消耗、口渴、多尿、肥胖、羸瘦、痲痺、神經痛、倦怠等の自覺的徴候を緩快し尿中の糖量を減退若しくは無糖狀に至らしむ。

適應症

糖尿病、結核兼糖尿病、腎臟病兼糖尿病。

著 者 と 職 業

◇著者は左記疾患の診療を職業とす

◇慢性淋疾及男病的性慾(陰萎、早洩、遺精、性感缺乏症等)

◇神經衰弱及血壓亢進症

東京市本郷區眞砂町三十七番地
にいつま醫院「電話小石川五七六五」

醫學博士 羽 太 銳 治
專 門 醫 新 妻 敬 一

315
387

終

